

## 23 京都バイオシティ構想の推進について

(文部科学省・経済産業省・農林水産省)

ライフサイエンスは、健康、食料、環境・エネルギーなど、人類が抱える深刻な諸問題の解決に寄与できる科学技術であり、我が国が科学技術創造立国を目指すうえで集中的に資源を投資する重点分野の一つとしても位置付けられております。

京都市におきましても、平成14年6月に「京都バイオシティ構想」を策定し、この分野に関する多くの大学や研究機関等の厚い学術的集積、独自の強みを発揮し国際的に活躍する先進企業群、更には、幾多のベンチャー企業を輩出してきた風土や仕組みを生かして、革新的な次世代医療を実現するナノメディシンの拠点形成プロジェクトをはじめ、産学公の緊密な連携によりライフサイエンスの振興につながる研究事業を推進しております。

つきましては、関西圏のライフサイエンスの国際拠点形成の一翼を担うこの取組のうち、次の事項についての格段の御配慮を要望します。

### 要望事項

- 1 「医学・工学分野の融合」など産学公共同により産業化を目指す研究開発に対する支援
- 2 患者中心の医療や新たな健康サービス産業の創出が期待できる統合医療の実現を目指す研究施設の京都地域での整備に向けた調査・研究の推進

主な要望先：文部科学省（科学技術・学術政策局基盤政策課地域科学技術振興室，研究振興局ライフサイエンス課）

経済産業省（製造産業局生物化学産業課，商務情報政策局サービス産業課医療福祉機器産業室）

農林水産省（農林水産技術会議事務局先端産業技術研究課）

京都市の担当課：産業観光局 商工部産学連携推進課 新産業創出担当課長 北村康二 TEL 075-222-3434

<参考>

京都バイオシティ構想の推進状況

1 重点分野と研究開発プロジェクト

(1) 医学と工学の融合分野

プロジェクトテーマ

医学・工学分野の融合による高次生命現象の解明や高度医療等に資する最先端技術の研究開発及び事業化

「医工連携による生命科学領域開拓プロジェクト 報告書」の作成(15年3月)

「細胞・生体機能シミュレータ開発プロジェクト」の推進(15年9月～)

「ナノメディシン拠点形成の基盤技術開発」の推進(17年1月～)

(2) 環境分野

プロジェクトテーマ

生分解性プラスチックをはじめとするバイオテクノロジーを活用した生物機能活用型循環産業システムの構築

「バイオマス繊維/生分解プラスチックの界面制御型複合材料の開発」成果報告書の作成(16年3月)

「生分解性プラスチックを活用した資源循環 京都モデル 実証実験報告書」の作成(17年3月)

(3) 地域資源を活用した分野

プロジェクトテーマ

蚕の工業的飼育システムを利用した有用物質生産工場化とその工業的利用に関する研究開発

「蚕を用いた有用タンパク質ニーズ調査等事業 報告書」の作成(15年3月)

「ポストゲノム解析を簡便にする生体試料精密分画キットの開発」(16年9月)

「バイオマスナノファイバーの製造と高植物度ナノコンポジットの開発」(17年9月)

2 研究シーズの発掘・事業化支援, 市民PR。

京都バイオ産業技術フォーラムの運営。財団法人京都高度技術研究所・京都バイオ産業創出プロジェクトとの連携。

3 関連研究機関誘致(整備)の検討

(1) 「バイオインキュベート施設」の整備

企業家,ベンチャー,中小企業等に対して,先端的なバイオ研究に対応できる研究室を提供するとともに,京都バイオシティ構想における中核施設としての役割を果たすインキュベート施設を整備する。

独立行政法人中小企業基盤整備機構による「クリエイション・コア京都御車」完成(17年11月)

酒蔵バイオVIL,財団法人京都高度技術研究所バイオVILの設置。(14年6月~17年3月)

(2) 「高次生体機能医工系研究センター(仮称)」の整備

医工連携による生体遺伝子ネットワークの分析・解析技術の研究開発,近未来の高度医療の実現に寄与する医療デバイス開発の推進拠点を整備する。

4 目標年次2010年における数値目標

- ・バイオ関連産業の売上高 1兆円
- ・バイオ関連特許出願数 年間500件
- ・大学発バイオベンチャー創業数 60社(累積)